

技術的条件集別表 29. 1

信号網接続用インタフェース仕様 1

1. 装置構成

本インタフェースにより接続を行う場合の装置構成例を図1. 1に示す。但し本インタフェースにより接続を行う場合、当社の伝送装置等と直接協定事業者の伝送装置等は、同一の通信用建物内に設置されるものとする。

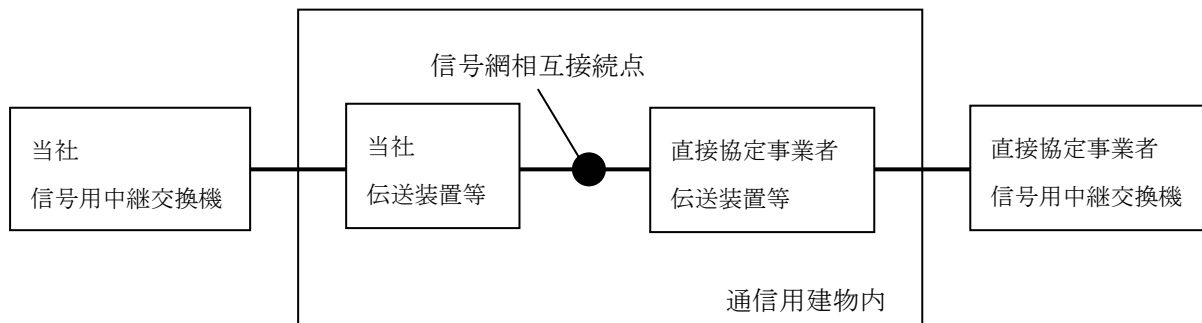


図1. 1 接続構成例

2. 物理的条件

本インタフェースの物理的条件を表2. 1、表2. 2に示す。

表2. 1 物理的条件

コネクタ	4W端子盤
------	-------

表2. 2 4W端子盤における回線名称と機能

回線名称	機能
S LINE (一対)	直接協定事業者からの送信
R LINE (一対)	直接協定事業者での受信

3. 電気的条件

本インタフェースの電気的条件を表3. 1に示す。

表3. 1 電気的条件

項目	特性
伝送符号	AMI符号
平衡/不平衡回路	平衡回路
送出電圧 (110Ω純抵抗終端時)	3.0V _{0-P} ±0.45V
正負パルス振幅偏差電圧(〃)	±0.15V 以下
半値幅 (〃)	7.8μs±0.9μs
不整合減衰量(100Hz~32kHz)	15dB以上
対地不平衡減衰量(640Hz~32kHz)	60dB以上
直流特性(保守試験実施時)	15mA以下

4. 論理的条件

4. 1 信号の定義

本インタフェースにおける信号の定義を表4. 1. 1に示す。

表4. 1. 1 信号の定義

論理	信号波形
" 0 "	バイポーラパルス無し
" 1 "	バイポーラパルス有り

4. 2 フレームの基本構成

本インタフェースにおけるフレームの基本構成を図4. 2. 1に示す。



図4. 2. 1 フレームの基本構成

4. 3 クロック同期・フレーム同期

直接協定事業者の伝送装置等はフレームビット等を利用することにより、クロック同期を行う必要がある。その際、直接協定事業者の伝送装置におけるクロック同期の周波数安定度は 10^{-4} 以下とする。同様に、フレーム同期も行う必要がある。当社網の受信側でフレーム同期が確立していないことを検出した場合、「F 0 0 0 0 0 0 (Fはフレームビット)」を送出する。

4. 4 試験機能

本インタフェースでは、以下に示す折り返し試験を行う。折り返し試験において、直接協定事業者の伝送装置にて有する必要がある折り返し機能を図4. 4. 1に示す。また各試験における折り返し条件を表4. 4. 1に示す。

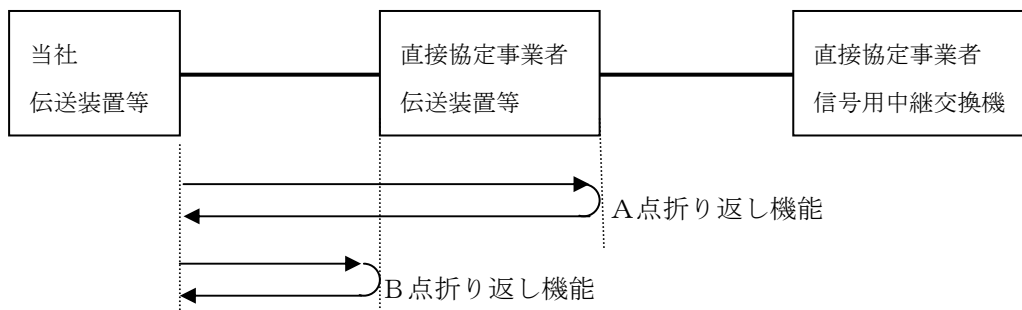


図4. 4. 1 直接協定事業者の伝送装置等にて有する必要がある折り返し機能

表4. 4. 1 各試験における折り返し条件

試験項目	折り返し条件	備考
A点折り返し	当社伝送装置等より送出したフレームパターン " F 1 0 0 1 0 0 0 " を返送	Fはフレームビット

B点折り返し	当社伝送装置等より送出した15mA以下の直流電流を返送	————
--------	-----------------------------	------

4.5 復旧時間

折り返し試験終了後において、直接協定事業者の伝送装置等が復旧するまでの時間は、概ね3秒以下とする。

4.6 網制御コード

本インタフェースにおける網制御コードを、表4.6.1に示す。

表4.6.1 網制御コード

フレームパターン	網制御コード	備考
"F0000000"	DNR (DCE Not Ready)	Fはフレームビット
"F0010100"	UNR (User Not Ready)	